

令和8年度 支援学校 仙台みらい高等学園 第1回学校評議員会

●日 時 令和8年5月22日（金）午後4時30分～午後5時30分

●参加者【本校】野崎、大川、藤原、菅野、阿部央、阿部雅、相澤、中島、菅原、大河原、小松、布川
菊田、千葉、青山静、有馬、福田、八木、井上、川崎、中川

【評議員】以下参照

●会 場 支援学校 仙台みらい高等学園 寄宿舍食堂

●内 容

1 校長挨拶（野崎）

新年度の授業が始まり、5月中旬を迎えたが、大きな事故等もなく、生徒たちは落ち着いて学校生活を送っている。本科1～3年生全学年が定員を充足し、開校以来、最多の在籍生徒数でのスタートとなっている。これは日頃の教職員の努力はもとより、評議員の方々からの貴重な意見・助言によるお陰であると感じている。今後も委員皆様方からの意見をいただきながら、より良い学校づくりに努めていきたい。引き続き協力をお願いしたい。

2 評議員紹介

- ・全国農業協同組合連合会 耕種総合対策部 東北営農資材事業所 事業所長
阿部 浩人 様
- ・同和興業株式会社 人事部 取締役部長 菅野 圭亮 様
- ・仙台市青葉区荒巻町内会 菊地 希壽 様（欠席）
- ・株式会社ガモウ 広域エリア営業部 東北エリア 統括 井上 英治 様（欠席）
- ・宮城学院女子大学 教育学部教育学科 教授 梅田 真理 様（欠席）

3 学校運営について（藤原）

【生徒の状況】

- ・配付資料参照（課程・学年在籍生徒数、コース選択状況等）

【教職員体制】

- ・常勤教職員29名（昨年度比4名増）、非常勤含む総教職員数52名となった。
- ・人事異動により管理職が増員。新たに大川が副校長、阿部(央)が事務長として4名体制でマネジメントにあたる。

【令和8年度 運営方針】「一丸」

- ・開校6年目を迎え、開校当初を知る教職員が減少する中、改めて原点に立ち返り、全教職員が一丸となって学校の更なる発展を目指す。
- ・個人ではなく組織・チームとして連携する仕組みづくりを推進。統括会議・部会・学年会・月1回の職員会議を開催し、意思決定の迅速化・情報循環の向上を図る。
- ・近い将来の定員充足（104名）に向け、本年度をさらなる飛躍の年と位置づける。

【重点目標】（菅野）

① 主体的・対話的な深い学びの実現

- ・ アセスメントの体系化と運用を重点課題とする。入学時アセスメントが現場指導や就労にどう活用されているかを検証し、体系的な運用を確立する。

② 地域社会との連携および共同強化

- ・ 有償インターン（デュアルシステム）が3年目を迎え、企業との連携をもとにしたスムーズな移行支援をさらに促進する。
- ・ 課外活動を拡大し、パラスポーツ・卓球・陸上の3団体と連携。火・水・木の放課後活動として実施開始。文化系の連携についても今年度中に仕組みづくりを推進する。

③ 共に学び共生する社会の実現

- ・ 障害者の高等教育・リカレント教育の促進を重点課題とする。
- ・ 特別支援学校高等部卒業後の「学び直し」への理解啓発を図るとともに、就労経験を持つ学生（30～40代の入学者）に対応した教育課程の再編成を進める。

4 各分掌部 重点目標について（学校運営計画P26-45）

【教務部】（福田）

- ・ グラデュエーションポリシーに基づく人材育成を目指し、個別最適な学びと協同的な学びの一体的充実を図る。
- ・ 授業改善の体制構築：アセスメントを活用した実態把握・情報共有・校内支援体制の充実。
- ・ 体験的・探究的な学びの接続：企業・地域機関と連携し、生徒が将来を具体的に考えられる学びを充実。
- ・ 多様な教育機会の提供：学び直し目的の入学者等、多様な背景を持つ生徒への継続的支援体制の整備。
- ・ カリキュラム変更（本年度より）：授業開始時刻を全曜日 9:00 に統一、1 単位時間を 40 分から 50 分に変更。
- ・ 専門教科コース名称変更・再編（1 年生から適用）：芸美→ビューティーアート、サービス→ビルメンテナンス&ロジスティクス/IT&オフィスワーク（2 コース分割）、食農→スイーツ&フードクリエイト、福祉コースは在籍生徒の卒業をもって終了。

【生徒指導部】（菊田）

- ・ 地域クラブ・文化芸術系サロン・ボランティア団体等との共同体制整備（年2回以上の情報交換）。
- ・ 地域資源を活用した課外・余暇活動の体験機会を年2回以上計画。
- ・ 生徒会・委員会活動・行事と連動した PDCA サイクルの経験機会を年2回以上設ける。
- ・ 課外活動：陸上（9名）・パラスポーツ（3名）・卓球（8名）の3種目を月会費制で実施中。

【進路指導部】（相澤）

- ・ 生徒の適性に応じた実習先の確保および実施フローの整備。各学年に進路担当を配置。
- ・ 有償インターン（デュアルシステム）の活用を通じた就労促進。
- ・ 学校での支援を企業でも継続できるよう移行支援を推進。関連ツールの見直し・運用改善を行う。

【地域支援部】（中島）

- ・ アセスメントの体系化：KABC-II・Vineland-II等の入学時アセスメントの現場活用状況を見直し、企業アンケートも実施しながら改善を図る。
- ・ 地域連携の促進：姉妹校（専門学校・通信制高校）との連携、大学や地域機関へのボランティア受け入れ等、年3回の連携活動を計画。
- ・ 仙台みらいモデルの開発：自立活動・専門教育の2教科を対象に年4回の研究授業→フィードバック→改善を繰り返し、学校独自の支援教育モデルをマニュアル化する。

【防災環境整備・保健部】（八木）

- ・ 防災意識の日常化：家庭との情報共有を通じ、地域の防災行事への参加を促す。
- ・ 受診率の向上：健康診断要受診勧告者の受診率53%以上を目標（昨年度実績49%）。
- ・ 健康管理スキルの育成：歯科・口腔衛生の指導強化（今年度の健診で歯肉炎・疑い生徒が全体の約70%）。

【事務部】（川崎）

- ・ 入試事務の精度向上：事務長・事務主任の新設を活かしチェック体制を強化し、ミス防止を図る。
- ・ 業務効率化の推進：教務部・進路指導部と連携し、書類作成や手続きの代行・情報共有を進める。
- ・ 専攻科進学支援体制の強化：定員充足に向け、姉妹校（通信制高校・専門学校）への周知資料を作成・活用する。

【舎務部】（和泉）

- ・ 一貫した支援体制の整備：学校・家庭・寄宿舎が情報共有を行い、卒業後にも有効な支援手立てを確立する。
- ・ 指導内容の明確化：アセスメントを活用し、礼儀・基本的生活習慣の定着に向けた具体的な支援内容を明確化。
- ・ 継続的な地域連携：仙台市天文台出張観望会・ヨガ体験会・フットサル体験会等、年間10回以上の活動を企画・実施する。

【広報部】（大河原）

- ・ 情報発信の強化：SNS 発信のルールを統一し、授業内容等の実質的な情報発信を強化。5年一貫教育・専攻科の打ち出しを促進する。
- ・ ニーズ調査・市場調査の実施：本科・専攻科1年生保護者を対象に入学動機・情報入手ルートを調査。特別支援学校高等部・高等学園への訪問を通じ、進路選択肢としての専攻科のニーズ・意向調査を行う。
- ・ 広報研修の実施・姉妹校との連携強化：今月より姉妹校教員向け見学会を開催し、継続予定。

5 質疑

【菅野委員】

- ・ 生徒数が増加する一方、教職員数とのバランスについて。

【藤原副校長】

- ・ 私立の特別支援系学校は比較対象が少なく、適正比率の判断が難しい。公立校と比較すると1クラス8名に対し担任教員数が少ないのが実情。私立としての経営上の制約もあり、公立と同等の配置は困難な面がある。

6 指導助言

【阿部委員】

- ・ 開校6年目で学校が着実に進化・発展していることを実感した。
- ・ 「一丸」というスローガンや各部の明確な数値目標は、教職員・生徒の一体感を高めるうえで効果的である。
- ・ カリキュラム変更も理由が明確であり、進化の表れと感じた。課外活動の拡充や全員参加で学校を盛り上げる姿勢を高く評価した。
- ・ 昨年度の農業体験等を通じて生徒の可能性を感じており、その可能性を伸ばす指導を引き続きお願いしたい。

【菅野委員】

- ・ 各部ごとに計画・目標を持って運営していることは素晴らしい。
- ・ 就職後のケア・相談体制を学校側が持とうとしていることに感銘を受けた。企業側では仕事面の指導が中心となるため、学校が卒業後も「戻れる場所」となることは非常に心強い。
- ・ 【情報共有】今年度、県内公立支援学校からの実習依頼が昨年・一昨年と比べて明らかに増加している。企業の法定雇用率増に伴う関心の高まりが背景にある。学校側も実習先の開拓に工夫が必要ではないか。
- ・ 健康診断の（再受診・未検者の）受診率53%について、企業では受診は就労の前提条件である旨、学校段階から意識させてほしい。

7 事務長挨拶（阿部央）

- ・ 本年度より着任し、初めて学校評議員会に参加することで、学校として様々な取り組みを行っていることを知ることができた。
- ・ 阿部委員からの「主体性」に関するご意見に共感した。教員が生徒を主体的に動かす関わり方が重要であり、社会に出ても自ら考え行動できる生徒の育成を目指したい。
- ・ 菅野委員からの「卒業後のケア」「コミュニケーション」に関するご意見は重要な課題として受け止めた。進路指導部を中心に検討していきたい。また、実習先の確保については一層力を入れていく。本校の教育内容・目的を企業へ積極的に発信していく。
- ・ 私学として経営基盤は重要であり、安定した運営をすることができている。この経営基盤のもと、さらなる教育内容の充実を図っていく。
- ・ 本日いただいたご指導ご鞭撻に深く感謝申し上げます。

以上